



年をとればとるほど

幸せになる

社会の実現に向けて



1995年にベネッセが介護事業を始めて以来、私たちはお客様から多くのことを学び、自社のサービス向上に努めてまいりました。

これまでお客様から学んだこと、教えていただいたことを、広く社会・介護業界全体に発信・貢献していきたい。その実現のために、2015年11月11日(介護の日)に、株式会社ベネッセスタイルケアの社内シンクタンクとして、「ベネッセ シニア・介護研究所」を設立いたしました。

当研究所の調査・研究の軸

1

高齢者・介護に関する未解決のテーマに取り組む

2

現場の実態やご利用者・ご家族・介護スタッフの声を発信する

3

介護人材の成長とキャリアにフォーカスした研究を行う

現場の声と実践を踏まえた取り組みができる、という強みを活かすことはもちろん、同業種・異業種の企業・法人との共同研究も積極的に進めていきたいと考えています。こういった活動を通して、「年をとればとるほど幸せになる社会」の実現へ貢献してまいります。

2015年11月設立 世界で一番「KAIGO」を知っている研究所を目指して

設立以来、試行錯誤を重ねながら、様々な研究を進めてまいりました。こちらで主な取り組みをご紹介します。
この先の10年、さらにその先も、社会にとって「なくてはならない存在」でありたい。
世界で一番「KAIGO」を知っている研究所を目指し、歩み続けてまいります。



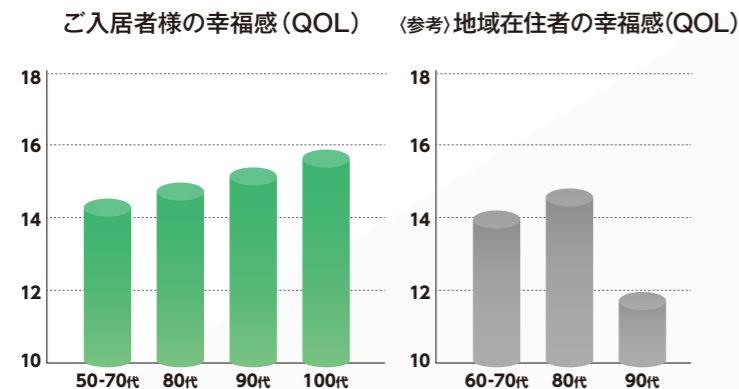
ベネッセ シニア・介護研究所 10年間の主な歩み

- 2015年 11月 ベネッセ シニア・介護研究所設立/「介護に関する意識調査」結果について発表
- 2016年 6月 第17回日本認知症ケア学会大会にて発表(※以降毎年継続)
- 2017年 4月 国際アルツハイマー病協会国際会議にて発表
- 2017年 10月 パーソル総合研究所との共同研究プロジェクト発足(※介護業界の離職経験者1,600人に対する調査)
- 2018年 3月 第1回 日英認知症会議にて登壇
- 2019年 3月 『はつだいの靴下』(株)山忠と共同開発
- 2019年 10月 全国介護付きホーム研究サミットにてグランプリ受賞(夜間ぐっすり排泄ケア®)
- 2020年 9月 経済産業省「サービス産業強化事業費補助金(認知症共生社会に向けた製品・サービスの効果検証事業)」に採択(認知症ケアメソッド®)
- 2020年 10月 夜間ぐっすり排泄ケア® グッドデザイン賞受賞
- 2021年 7月 国立研究開発法人日本医療研究開発機構(AMED)の「ロボット介護機器開発等推進事業(開発補助)」に採択(マジ神AI)
- 2023年 1月 日本認知症ケア学会誌に認知症ケアメソッド®開発についての論文掲載
- 2023年 7月 第24回日本認知症ケア学会大会における発表「マジ神解体新書」が「石崎賞※1」を受賞
- 2023年 9月 「人生100年時代」における高齢者のウェルビーイングの年代による変化について 日本老年行動科学会第25回青森大会にて発表(幸福感調査)
- 2024年 9月 ベネッセの有料老人ホームのご入居者は「年代が上がるほど、QOLが高い」ことを示唆 日本老年行動科学会第26回東京大会にて発表(幸福感調査)
- 2025年 5-6月 「マジ神AI」の活用が介護職の効果的な状態把握を促進し、ご入居者様のQOL改善に繋がることを示唆 人工知能学会全国大会(第39回)・第26回日本認知症ケア学会大会にて発表

※1:日本認知症ケア学会大会において、認知症ケアに関する独創性・有用性・発展性の観点から優秀な演題発表をした者に贈られる。

幸福感調査

ご入居者様の幸福感(QOL)は地域在住者と異なり、年代が高いほど高い



ベネッセのホームのご入居者様は、年代が高いほど、幸福感(QOL)が高い

地域にお住まいのご高齢者を対象にした調査では、90代の方の幸福感(QOL)が低かった一方、ベネッセのホームのご入居者様は、年代が高いほど幸福感(QOL)が高いことがわかりました。

◎「ご入居者様の幸福感(QOL)」は2024年4・5月に実施したご入居者様を対象にした調査データ(5482名)より。
〔参考〕地域在住者の幸福感(QOL)は2023年2・3月に実施した地域在住高齢者を対象にした調査データ(419名)より。
◎それぞれのグラフの縦軸は精神的健康を測定するWHO-5の平均値を表しています。

メソッド開発

これまでの実践知を言語化・見える化した「ベネッセメソッド®」の開発

認知症ケアメソッド®

当社運営ホームの認知症の方をはじめとする様々なご入居者さまにうまく寄りそえた事例を比較・分析・言語化し、「その方らしさに、深く寄りそう。」を様々な形で実現するための40の「コツ」をまとめたもの

夜間ぐっすり排泄ケア®

肌と与える負担や不快感が少ない、適切なおむつ・パッドを選択し、アセスメントに基づいて夜間のパッド交換回数を低減するとともに、洗浄液を用いたスキンケアも徹底することで、ご入居者の睡眠状態の改善を目指す取り組み

夜間のおむつ交換を引き算
夜間は連続睡眠→質も向上

睡眠状態
(アテネ不眠尺度)

悪化 12.0%
維持 16.8%
改善 71.2%

意欲
(バイタリティインデックス)

悪化 17.4%
維持 42.9%
改善 39.7%

ADL
(バーセルインデックス)

悪化 21.9%
維持 54.6%
改善 23.5%

ベネッセスタイルケアのご入居者549名の3ヶ月の変化(平均年齢89.3歳、平均要介護度4.05)

◎第32回日本老年泌尿器科学会にて発表。

マジ神AI効果検証

介護の匠「マジ神®※2」の思考プロセス・観点を可視化、AIの活用効果も検証

▲マジ神の視線解析・インタビューの様子

マジ神AIダッシュボードの画面イメージ▶

専門性の高い介護職(マジ神®※2)が、日々蓄積されるご入居者様の様々なデータを利活用し、質の高い介護サービスを提供する際のノウハウを視線計測やインタビューを通じて言語化。並行して、経験の浅い介護職であっても専門性の高い介護職に近い介護サービスの提供を可能とする業務支援・人材育成システム「マジ神AI」の活用によるサービス向上効果の検証も進めています。

※2:当社では、高い専門性と実践力をもつ介護の匠を「マジ神®」として認定する社内資格制度を設けています。マジ神®には「認知症ケア」「安全管理と再発防止」「介護技術」「医療連携&ACP(Advance Care Planning)」の4つがあり、資格を取得した社員には資格手当も支給されます。マジ神®たちが培った知見を言語化し、研修を体系化することで、次のマジ神®の育成につなげています。

設立10周年を迎えて



ベネッセ シニア・介護研究所
所長 滝山 真也

2025年、ベネッセの介護事業は30周年を迎えました。この歴史の中で、特に直近10年間は「実践知の言語化」に注力してきましたが、それを支えたのが「ベネッセ シニア・介護研究所」の存在です。

介護の成功事例が共有されることはあっても、なぜうまくいったのかは深く分析されていない。高スキルの介護人材のすごさが勘やセンスで語られてしまい、言語化されない。これらは、介護現場で往々にして起こりえる課題です。

「実践知の言語化」がされないと、その成功事例や高い介護力に「再現性」を見出すことはできません。言語化されてはじめて、成功事例を増やしたり、高スキルの介護人材を育成したりすることができます。

設立以来10年間、当研究所はこの点にこだわった研究を積み重ねてきました。また、「よかれ」と思って取り組んだ介護がエビデンスに基づいておらず、ご高齢者と介護職がともに苦しむということも、介護現場では時折見られます。エビデンスとアウトカムをもとに、ご高齢者も介護職も笑顔になれる介護とは何かを追求していくことも、当研究所の使命の一つと考えています。

科学的な介護の実践と推進に貢献するために、産官学の皆様のお力添えをいただきながら、当研究所はさらなる挑戦を続けてまいります。



ベネッセ シニア・介護研究所
事務局長 原田 文雄

設立以来、おかげさまで数多くの企業や大学、研究者の皆さまから共同研究等のお声掛けをいただいたものの、こちら側の体制や経験不足もあり、ご期待に沿えない形となってしまうこともありました。

その一方で、「幸福感」に関する共同調査研究やAMED助成をいただいた研究開発等は、試行錯誤しながらも一步一步積み上げてきた10年間でありました。

この先の10年、さらにその先へ。社会にとって「なくてはならない存在」でありたい。

「世界で一番『KAIGO』を知っている研究所」として「年をとればとるほど幸せになる社会」の実現に向けて、これからも貢献していきたいと考えております。



ベネッセ シニア・介護研究所
主任研究員 福田 亮子

介護を取り巻く状況は、この10年で大きく変わりました。介護記録の電子化をはじめとしたICTやテクノロジーの活用が進み、従来多く見られた経験や勘に基づくケアに代わりエビデンスに基づく「科学的介護」を実践する環境が整いつつあります。データ基盤が整うことで、調査・研究も行いやすくなってきました。

一方、介護人材の不足はますます深刻化しており、その解決は喫緊の課題です。介護される側と介護する側双方のQOLを担保するために、介護はどうあるべきなのか。電子データだけでなく現場の声や様子など生のデータも大切にしながら、介護や高齢社会の課題の一刻も早い解決に向けて、これからも研究を推進してまいります。

